1.	私	0	携	わ	つ	た	シ	ス	テ	ム	開	発	プ	П	ジ	エ	ク	<u>۲</u>						
1.1	プ	口	ジ	工	ク	<u> </u>	0)	特	徴															
	私	は	SI	企	業	X	社	で	プ	口	ジ	エ	ク	<u>۲</u>	(	以	下	PJ)	管	理	を	担	当	l
て	٧١	る	0	今	口	取	ŋ	上	げ	る	PJ	は	A	社	の	ビ	ル	設	備	機	器	保	守	管
理	シ	ス	テ	4	開	発	(	以	下	A	社	PJ)	で	あ	る	0	A	社	要	請	は	現	行	シ
ス	テ	4	の	機	器	監	視	機	能	強	化	ک	使	用	性	向	上	0	た	め	シ	ス	テ	4
構	成	を	_	新	し	`	新	工	レ	ベ	<u> </u>	タ	Ø	導	入	に	合	わ	せ	て	稼	働	開	始
l	た	V	と	V	う	ŧ	0)	で	あ	つ	た	0	A	社	は	当	社	と	は	初	め	て	0	取
引	と	な	り	`	今	後	0)	受	注	を	含	め	重	要	顧	客	ک	位	置	づ	け	5	れ	た
	本	PJ	の	特	徴	は	以	下	の	2	点	ك	な	る	0									
	1.	納	期	は	9	力	月	後	と	開	発	内	容	に	対	し	て	短	期	で	厳	し	٧١	0
	2.	機	器	監	視	機	能	に	関	L	て	高	難	度	技	術	で	あ	る	機	器	保	守	時
		期	予	知	機	能	(	以	下	P	機	能	)	を	新	規	開	発	搭	載	す	る	0	
	本	РJ	は	特	に	重	要	顧	客	向	`	短	納	期	ح	V	う	٦	ک	で	重	点	案	件
に	登	録	さ	れ	た	0	٦	の	状	況	下	で	私	は	PJ	マ	ネ	ジ	ヤ	を	拝	命	し	\
当	事	業	所	挙	げ	て	0	推	進	と	な	つ	た	0										

1/9

1.2		重	点	管	理	し	た	ア	ク	テ	イ	ビ	テ	イ	٤	進	捗	管	理	0	方	法		
	私	は	`	W	BS	を	作	成	し	`	全	て	0	開	発	機	能	ک	ア	ク	テ	イ	ビ	テ
イ	を	洗	٧١	出	l	`	エ	数	と	必	要	な	人	的	資	源	等	を	算	出	l	た	0	そ
l	て	PI	M	を	用	V	て	ス	ケ	ジ	ユ	<u> </u>	IJ	ン	グ	を	行	٧١	`	ク	IJ	チ	カ	ル
パ	ス	を	調	ベ	た	0	そ	0	結	果	`	開	発	規	模	と	エ	数	が	最	大	で	あ	る
P	機	能	0	内	部	設	計	`	結	合	テ	ス	1	`	総	合	テ	ス	<u>۲</u>	工	程	に	お	け
る	ア	ク	テ	イ	ピ	テ	イ	が	ク	IJ	チ	カ	ル	パ	ス	ح	な	つ	て	お	り	РJ	全	体
0)	進	捗	を	左	右	す	る	ل٤	と	が	確	認	さ	れ	た	0	そ	0)	た	め	私	は	`	ک
0	ア	ク	テ	イ	ビ	テ	イ	を	重	点	管	理	す	る	۲	と	に	し	た	0				
	私	は	定	量	的	な	進	捗	管	理	を	行	う	た	め	に	EV	7M	を	採	用	す	る	٢
と	に	し	た	0	具	体	的	に	は	`	毎	週	末	EV,	AC	を	ア	ク	テ	イ	ビ	テ	イ	単
位	で	チ	_	ム	IJ	<u> </u>	ダ	に	報	告	さ	せ	`	PV	ح	比	較	管	理	す	る	),	ک	に
し	た	0	ま	た	`	進	捗	は	メ	ン	バ	<u> </u>	全	員	が	_	目	で	確	認	で	き	る	よ
う	に	`	進	捗	バ	<u> </u>	チ	ヤ	_	ト	`	問	題	点	_	覧	Ø	他	`	各	種	設	計	書
Þ	操	作	画	面	`	プ	口	グ	ラ	4	等	の	成	果	物	を	РJ	共	通	サ	_	バ	に	_
括	保	管	す	る	۲.	٤	に	L	た	0														

論文の著作権は論文の作者に帰属する。無断転載・複製を禁ず。

問: 平成 22 年度 問3

2.	進	捗	管	理	で	0	遅	れ	0)	徴	候	発	見	ك	日	程	を	守	る	対	策			
2.1	進	捗	遅	れ	兆	候	0)	早	期	把	握	の	方	法										
	私	は	`	РJ	進	捗	管	理	計	画	策	定	に	当	た	り	`	EV,	AC	の	報	告	は	チ
<u> </u>	A	IJ	_	ダ	の	負	担	を	考	え	週	1	口	と	l	た	0	そ	l	て	特	に	重	点
管	理	ア	ク	テ	イ	ビ	テ	イ	と	し	た	P	機	能	に	つ	V	て	は	`	EV	AC	に	先
行	L	た	進	捗	遅	れ	0	兆	候	を	発	見	す	る	指	標	と	L	て	`	担	当	Ø)	残
業	時	間	と	未	解	決	問	題	点	に	注	目	す	る	۲	٤	に	l	た	0	何	故	な	ら
ば	`	残	業	時	間	の	増	加	と	未	解	決	問	題	の	停	滞	は	何	Ġ	カュ	の	<u> ۲</u>	ラ
ブ	ル	の	発	生	を	示	l	て	お	り	`	進	捗	遅	れ	の	兆	候	把	握	に	有	効	と
考	え	た	カュ	5	で	あ	る	0	さ	Ġ	に	残	業	時	間	は	勤	怠	管	理	表	か	Ġ	,
未	解	決	問	題	点	は	РJ	共	通	サ	<u> </u>	バ	上	の	問	題	点	リ	ス	<b>ا</b>	か	5	`	メ
ン	バ	<u> </u>	0)	負	担	な	<	私	が	日	々	チ	工	ツ	ク	で	き	る	カュ	ら	で	あ	る	0
	私	は	兆	候	に	対	す	る	実	際	の	ア	ク	シ	3	ン	発	動	レ	ベ	ル	٤	L	て
P	機	能	担	当	者	の	残	業	時	間	3H	が	連	続	2	日	継	続	し	且	つ	同	_	未
解	決	問	題	が	3	月	間	未	解	決	で	あ	る	状	態	を	設	定	し	た	0	そ	し	て
フ	オ	П	<u> </u>	ア	ク	シ	3	ン	と	し	て	`	関	連	メ	ン	バ	<u> </u>	に	よ	る	臨	時	検

論文の著作権は論文の作者に帰属する。無断転載・複製を禁ず。

400

1/9

討	会	議	を	招	集	L	`	原	因	ح	対	策	を	組	織	的	に	迅	速	に	検	討	す	る
	ک	を	PJ	ル	<u> </u>	ル	と	し	て	メ	ン	バ	<u> </u>	に	周	知	L	た	0					
2.2	ア	ク	テ	イ	ビ	テ	イ	0	完	了	日	を	守	る	た	め	0	対	策					
	P	機	能	開	発	0)	ア	ク	テ	イ	ピ	テ	イ	は	高	度	な	技	術	内	容	で	あ	る
	٢	は	計	画	段	階	カゝ	Ś	明	白	で	あ	つ	た	0	私	は	`	設	計	品	質	を	確
保	L	た	上	`	日	程	守	る	た	め	`	当	事	業	所	0	中	で	ŧ	特	に	ア	ル	ゴ
IJ	ズ	ム	\$	シ	3	ユ	レ	<u> </u>	シ	ヨ	ン	技	術	に	関	L	た	高	ス	キ	ル	保	有	者
で	あ	る	SE2	名	を	確	保	し	ア	サ	イ	ン	し	た	0									
	今	□	0	P	機	能	の	設	計	の	ベ	_	ス	は	`	短	納	期	で	あ	る	۲	と	t
あ	り	`	当	社	本	社	研	究	部	門	で	あ	る	R	¢D	セ	ン	タ	<u> </u>	の	故	障	予	知
ア	ル	ゴ	IJ	ズ	4	開	発	部	門	の	研	究	成	果	を	利	用	す	る	0	私	は	`	ر ۲
<i>の</i>	技	術	<u>۱</u>	ラ	ン	ス	フ	ア	を	確	実	に	l	て	設	計	品	位	を	確	保	す	る	た
め	`	単	に	成	果	物	を	引	き	継	\(\circ\)	だ	け	で	な	<	`	設	計	開	始	前	<i>O</i>	1
週	間	,	上	記	SE2	名	を	R&	&D	セ	ン	タ	<u> </u>	12	派	遣	し	技	術	情	報	を	徹	底
収	集	さ	せ	た	0																			
	内	部	設	計	が	中	盤	に	さ	L	カュ	カュ	っ	た	時		私	は	`	遅	延	<i>O</i>	兆	候
	, ,	-1.	P21	н і	.,	'	-1111-	• -					_	'-		,	J <del>-</del> ,	,	,	, ,	<i></i>	-	/ -	

を	検	知	し	臨	時	検	討	会	議	を	開	催	す	る	ک ا	ح	に	L	た	0	会	議	で	0
担	当	者	0)	説	明	カュ	5	`	遅	延	兆	候	発	生	の	原	因	は	ア	ル	ゴ	IJ	ズ	٨
0	方	式	選	定	に	関	す	る	技	術	的	な	項	目	で	あ	つ	た	0	そ	l	て	`	私
は	`	方	式	選	定	は	今	後	の	性	能	に	大	き	<	拘	わ	つ	て	V	る	۲	と	と
高	度	な	技	術	的	な	判	断	が	必	要	で	あ	る	٢.	ک	を	認	識	l	`	担	当	SE
0	能	力	を	超	え	て	٧١	る	ŧ	の	ح	判	断	l	た	0								
	そ		で	私	は	特	に	技	術	問	題	の	解	決	支	援	0)	た	め	に	`	R8	&D	セ
ン	タ	_	の	故	障	予	知	ア	ル	ゴ	IJ	ズ	4	開	発	部	門	の	支	援	体	制	を	確
保	す	る	λJ	と	に	l	た	0	R	&D	セ	ン	タ	<u> </u>	の	専	門	家	の	当	РJ	^	Ø	常
時	参	加	は	現	状	業	務	と	関	係	で	困	難	で	あ	り	`	又	所	在	地	は	当	事
業	所	ح	は	離	れ	た	K	市	に	あ	る	0	そ	の	た	め	日	常	的	な	交	流	は	不
可	能	で	あ	る	0	そ	),	で	`	私	は	`	専	門	家	3	名	を	PJ	メ	_	IJ	ン	グ
IJ	ス	<u>۱</u>	に	登	録	l	日	常	0)	PJ	情	報	を	共	有	す	る	ح	と	ŧ	に	`	РJ	サ
_	バ	の	IJ	ポ	ジ	<u>۲</u>	IJ	<u> </u>	^	の	ア	ク	セ	ス	権	を	与	え	`	全	て	Ø	開	発
資	料	を	閲	覧	可	能	と	す	る		ح	に	l	た	0	常	に	全	て	の	技	術	情	報
P	開	発	の	背	景	状	況	ま	で	共	有	す	る	2	٤	で	_	体	感	を	高	め	`	<u>۱</u>

論文の著作権は論文の作者に帰属する。無断転載・複製を禁ず。

																				_				
ラ	ブ	ル	時	0)	支	援	が	ス	7		ズ	ک	な	る	様	に	考	え	た	カュ	5	で	あ	る
	私	は	`	R&	<b>z</b> D	セ	ン	タ	_	長	に	3	名	0)	支	援	了	解	を	取	ŋ	付	け	`
<u> </u>	ラ	ブ	ル	時	0)	検	討	会	議	に	は	TV	会	議	等	で	ス	ポ	ツ	<u> </u>	的	に	参	加
l	て	貰	う	体	制	と	し	た	0															
	そ	0	結	果	`	今	回	0)	ア	ル	ゴ	IJ	ズ	4	方	式	選	定	問	題	は	彼	5	0
的	確	な	ア	ド	バ	1	ス	に	ょ	り	品	質	や	性	能	的	な	見	地	カュ	5	無	事	解
決	す	る	J	ک	が	で	き	た	0															
	私	は	`	さ	5	に	P	機	能	0)	ア	ク	テ	イ	ビ	テ	イ	0)	口口	質	を	ょ	り	_
層	高	め	る	た	め	`	R&	&D	セ	ン	タ	<u> </u>	の	3	名	に	は	エ	程	毎	0)	レ	ビ	ユ
<u> </u>	に	は	出	張	ベ	<u> </u>	ス	で	参	加	L	て	貰	う	۲	ک	に	し	た	0	そ	L	て	早
期	に	致	命	的	な	問	題	を	抽	出	l	`	ょ	ŋ	上	流	工	程	で	品	質	を	作	ŋ
2	め	る	体	制	と	L	た	0																

論文の著作権は論文の作者に帰属する。無断転載・複製を禁ず。

問: 平成 22 年度 問3 設問ウ

3.	進	捗	遅	れ	0	発	生	と	対	策														
3.1	進	捗	遅	れ	の	発	生																	
	РJ	は	計	画	通	ŋ	進	捗	l	`	総	合	テ	ス	1	に	突	入	l	た	0	と	2	ろ
が	`	負	荷	テ	ス	1	に	て	A	社	の	実	証	試	験	機	0	故	障	予	知	時	期	計
算	値	ک	テ	ス	<u>۲</u>	機	0	計	算	結	果	が	_	致	L	な	٧١	ک	٧١	う	問	題	が	発
生	L	た	0	٦	の	状	況	は	兆	候	検	出	の	仕	組	み	で	捉	え	5	れ	`	私	を
含	む	臨	時	検	討	会	議	で	原	因	を	究	明	し	た	0	L	カゝ	l	な	が	Ġ	要	因
が	多	す	ぎ	て	原	因	が	特	定	で	き	ず	`	予	定	ょ	り	1	週	間	の	遅	れ	と
な	つ	て	l	ま	つ	た	0																	
3.2	遅	れ	の	原	因	٤	影	響	分	析														
	私	は	`	R&	ζD	セ	ン	タ	_	の	専	門	家	に	出	張	を	依	頼	L	`	実	機	を
直	接	調	査	す	る	٢.	と	に	よ	り	原	因	を	究	明	l	て	貰	う	٢.	ح	に	L	た
技	術	難	度	が	高	<	РJ	メ	ン	バ	<u> </u>	だ	け	で	は	解	決	不	能	ح	判	断	し	た
た	め	で	あ	る	0																			
	3	名	0)	専	門	家	0)	調	查	に	ょ	り	,	テ	ス	<b>١</b>	機	0)	予	知	ア	ル	ゴ	IJ
ズ	A	0	特	定	タ	ス	ク	が	CPU	負	荷	過	大	に	よ	り	処	理	時	間	が	長	<	な

論文の著作権は論文の作者に帰属する。無断転載・複製を禁ず。

400

1/9

り	`	他	タ	ス	ク	間	0)	受	け	渡	し	デ	_	タ	ح	同	期	し	て	い	な	٧١	٦	ح
カミ	原	因	で	あ	る	<i>-</i>	ك	が	判	明	L	た	0	そ	し	て	`	対	策	ك	l	て	1000	Step
0	ア	ル	ゴ	IJ	ズ	4	関	連	プ	口	グ	ラ	ム	修	正	と	`	必	要	工	数	80]	H(2	名
*5	日	)	が	見	積	ŧ	5	れ	た	0														
	総	合	テ	ス	1	で	は	`	既	に	1	週	分	の	作	業	PV=	70H	分	の	遅	延	が	発
生	l	て	V	る	0	٦	れ	に	追	加	作	業	ح	な	る	プ	口	グ	ラ	4	修	正	1	週
間	分	が	加	わ	ŋ	`	本	ア	ク	テ	イ	ビ	テ	イ	は	2	週	間	遅	れ	る	見	込	み
ح	な	つ	た	0																				
3.3	追	加	対	策	٤	結	果																	
	総	合	テ	ス	1	0	試	験	遅	れ	PV=	70H	分	の	作	業	は	`	残	り	2	週	間	で
IJ	カ	バ	IJ	<u> </u>	対	応	を	す	る	ک	ح	で	当	初	計	画	が	達	成	さ	れ	る	0	対
策	と	L	て	ŧ	ح	ŧ	と	0	メ	ン	バ	_	4	名	の	時	間	外	を	充	て	る	J. J	ح
に	し	た	0	理	由	は	`	新	メ	ン	バ		追	加	で	は	逆	に	効	率	を	低	下	さ
せ	る	ک	と	及	び	РJ	最	後	の	エ	程	で	ŧ	あ	り	多	少	<i>O</i>	無	理	を	L	て	で
ŧ	平	日	0)	2H	程	度	の	残	業	٤	休	出	で	対	応	L	た	方	が	得	策	と	考	え
た	カゝ	5	で	あ	る	0																		

から R&D センターの今回の出張支援者2名に引き続き1 正作業も依頼することにした。そして、総合テストと3 列に作業を実施することで修正後の最終テストとレグ ッションテストに一週間かけられる計画としアクティ ティ完了日を確実にした。 アクティビティは2週間でレビューを含め予定通り3 了した。そして、PJとしての納期も達成することがで た。追加費用は当初より150万円超過した。しかし、コ テンジェンシー予備費として500万円の予算の中から割 当てることで全体としては予算を達成できた。																									
正作業も依頼することにした。そして、総合テストと3列に作業を実施することで修正後の最終テストとレグ ッションテストに一週間かけられる計画としアクティ ティ完了日を確実にした。 アクティビティは2週間でレビューを含め予定通りま てした。そして、PJとしての納期も達成することがでま た。追加費用は当初より150万円超過した。しかし、コニテンジェンシー予備費として500万円の予算の中から割 当てることで全体としては予算を達成できた。			方	`	ア	ル	ゴ	IJ	ズ	ム	修	正	は	高	٧١	専	門	能	力	が	必	要	な	۲	と
列に作業を実施することで修正後の最終テストとレグ         ッションテストに一週間かけられる計画としアクティ         ティ完了目を確実にした。         アクティビティは2週間でレビューを含め予定通り         了した。そして、PJとしての納期も達成することがで         た。追加費用は当初より150万円超過した。しかし、コ         テンジェンシー予備費として500万円の予算の中から割         当てることで全体としては予算を達成できた。         その結果、QCDとも目標を達成できた。	か	ら	R&	&D	セ	ン	タ	<u> </u>	0	今	口	0	出	張	支	援	者	2	名	に	引	き	続	き	修
ッションテストに一週間かけられる計画としアクティ       ティ完了日を確実にした。       アクティビティは2週間でレビューを含め予定通り       了した。そして、PJとしての納期も達成することがで       た。追加費用は当初より150万円超過した。しかし、コランジェンシー予備費として500万円の予算の中から割       当てることで全体としては予算を達成できた。       その結果、QCDとも目標を達成できた。	正	作	業	ŧ	依	頼	す	る	٢.	ک	に	L	た	0	そ	し	て	`	総	合	テ	ス	<u>۲</u>	ک	並
ティ完了目を確実にした。         アクティビティは2週間でレビューを含め予定通り         了した。そして、PJとしての納期も達成することができた。         た。追加費用は当初より150万円超過した。しかし、コランジェンシー予備費として500万円の予算の中から割         当てることで全体としては予算を達成できた。         その結果、QCDとも目標を達成できた。	列	に	作	業	を	実	施	す	る	ر ۲	ح	で	修	正	後	の	最	終	テ	ス	卜	と	レ	グ	レ
アクティビティは2週間でレビューを含め予定通り3         了した。そして、PJとしての納期も達成することがでまた。追加費用は当初より150万円超過した。しかし、コランジェンシー予備費として500万円の予算の中から割         当てることで全体としては予算を達成できた。         その結果、QCDとも目標を達成できた。	ツ	シ	3	ン	テ	ス	<b>١</b>	に	_	週	間	カュ	け	5	れ	る	計	画	と	L	ア	ク	テ	イ	ビ
了した。そして、PJとしての納期も達成することができた。追加費用は当初より150万円超過した。しかし、コランジェンシー予備費として500万円の予算の中から割         当てることで全体としては予算を達成できた。         その結果、QCDとも目標を達成できた。	テ	イ	完	了	日	を	確	実	に	L	た	0													
た。追加費用は当初より150万円超過した。しかし、コランジェンシー予備費として500万円の予算の中から割         当てることで全体としては予算を達成できた。         その結果、QCDとも目標を達成できた。		ア	ク	テ	イ	ピ	テ	イ	は	2	週	間	で	レ	ピ	ユ		を	含	め	予	定	通	り	完
テンジェンシー予備費として500万円の予算の中から割       当てることで全体としては予算を達成できた。       その結果、QCDとも目標を達成できた。	了	L	た	0	そ	l	て	`	PJ	ح	し	て	の	納	期	ŧ	達	成	す	る	Ŋ	と	が	で	き
当 て る こ と で 全 体 と し て は 予 算 を 達 成 で き た 。	た	0	追	加	費	用	は	当	初	よ	り	150	万	円	超	過	l	た	0	し	カュ	L	`	コ	ン
その結果、QCD とも目標を達成できた。	テ	ン	ジ	工	ン	シ	<u> </u>	予	備	費	ح	l	て	500	万	円	の	予	算	0	中	カュ	Š	割	り
	当	て	る	),	ك	で	全	体	ک	し	て	は	予	算	を	達	成	で	き	た	0				
以上		そ	0)	結	果	`	Q	CD	ح	ŧ	目	標	を	達	成	で	き	た	0						
																					以	上			
						· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·																			

論文の著作権は論文の作者に帰属する。無断転載・複製を禁ず。

# 論文添削結果 (クイック)

2012.02.16 みんなのSE創研

添削者:佐藤 創

#### 【添削情報】

論文提出者:●●●●●様

問題 : 平成22年度 問3

#### 【免責事項・その他】

本添削結果は、添削者個人の判断によるものであり、所属する会社や組織を代表する意見ではございません。また、本添削結果に即したからといって試験の合格を保証するものではありません。本添削結果の使用の結果生ずるあらゆる損害や被害について添削者は免責されるものとします。本添削結果の著作権は添削者に帰属します。

#### [目次]

- 1. 論文見出し構成の例
- 2. 論述すべき内容
- 3. 添削結果
- 4. 講評
- 5. 今後の学習に関するコメント

## 1. 論文見出し構成の例

以下に添削者が考える、本問題の見出し構成の例を示します。

- 1. 私が携わったプロジェクトの特徴
  - 1. 1 プロジェクトの特徴
  - 1. 2 重点的に管理したアクティビティとその理由
  - 1. 3 進捗管理の方法
- 2. 進捗遅延の兆候への対応
  - 2. 1 進捗遅れの兆候の早期把握
  - 2. 2 品質を確保した上で完了日を守るための対策
- 3. 進捗遅延への対応
  - 3. 1 進捗遅延の原因と影響の分析
  - 3.2 追加で実施した対策
  - 3. 3 対策の結果

## 2. 論述すべき内容

以下に添削者が考える、問題文から読み取れる題意と、求められる論述内容について、1. 論文見出し構成例に沿って示します。

見出し	論述すべき内容	備考
1. 1	①プロジェクトの概要について端的に述べられていること ②プロジェクトの特徴(契約・納期・費用・各種制約)について、 今後の論述の布石になるような内容を適切に述べていること	
1. 2	①重点的に管理すべきアクティビティを具体的に述べていること ②なぜ重点的に管理する必要があったのか、適切な理由を述べてい ること	
1. 3	<ul><li>①進捗管理の方法について述べていること</li><li>⇒進捗遅れの兆候を早期把握するための工夫については、2.1</li><li>節で述べてよい。本節では文面が足りないので論述できない。</li></ul>	
2. 1	<ul> <li>①重点的なアクティビティの進捗遅れの兆候を早期に把握できる方法を述べていること</li> <li>②進捗遅れの兆候としてどんな事象を認識したのかを、具体的に述べていること</li> <li>③1.3節で前述した進捗管理の方法で、遅れの兆候を発見したことがわかる論述であること</li> <li>※備考にも記載しているが、進捗遅れの兆候を把握した論述は、プロジェクトの計画段階で把握したケースでも、実際にプロジェクトが開始されてから把握したケースでも良い。ただしプロジェクト実行段階で把握したという論述をしたほうが、論文全体の流れからして、対応はしやすい。</li> </ul>	・進捗遅延の兆候を早期に把握する時点が、計算に把握する時点が、計算にしたもの。の北になる。・進捗遅延の兆にのの北壁を開発についてのが、は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で

2. 2	①対策の内容が、進捗遅れの兆候の原因に対して有効であり、進捗 遅れを予防できる根拠とともに述べられていること ②品質を確保できる対策を述べていること(単なる人海戦術や、稼 働時間の増加(残業)によってクラッシングするだけの対策では ないこと)	
3. 1	①2章の対策をしたにも関わらず進捗遅れが発生したケースを述べる。2章の論述内容と別要因での進捗遅れを述べない。 ②把握した進捗遅れの状況について定量的に述べられていること ③進捗遅延の原因を分析していること ④進捗遅延がプロジェクトに与える影響について、定量的に分析し述べていること	・設問イの対策にも関わらず遅れが発生したことを述べる。
3. 2	①進捗遅れの原因に有効な対策について述べていること ②対策の有効性について定量的に分析していること	
3. 3	①対策が有効に機能した点を述べていること ②具体的な成果や事実を基に述べていること	

本問題は、進捗管理というオーソドックスなテーマからの出題であり、誰にでもなじみのある問題でした。ただしなじみがあるからこそ、問題で問われているストーリーには起伏がつけられています。重点的に管理しなければならないアクティビティに対する予兆管理の結果、進捗遅れの予兆を検出します。その原因に対処を打って、進捗遅延を予防しようとしますが、結果的には進捗遅延が発生してしまいます。そして更なる対策を打つことで、進捗遅延の影響を最小化した、といったストーリーです。なかなか起伏があるだけに、事前のストーリー構成がしっかりしていないと後で矛盾だらけの論文になってしまう可能性もあります。

また、予兆管理への対応と進捗遅延への対応の2種類について述べる必要があります。予兆管理はプロジェクトマネジメントの重要な観点ですが、誰しもができているわけではない、多少高度な内容でもあります。この予兆管理に対する実務経験の有無が、論文の完成度を左右することになります。

# 3. 添削結果

添削者が考える論文評価結果を、A~Dランクに分けて示します。合格はAランクのみです。

評価ランク	内容	判定
В	合格水準にあと一歩である	不合格

※A~Dランクの評価内容は以下の通りです。

A: 合格水準にある

B: 合格水準にあと一歩である

C:内容が不十分である

D:出題の要求から著しく逸脱している

添削者が考える、各種の詳細な評価項目について、それぞれA~Dランクを示します。

評価項目	評価基準	評価ランク	内容
題意の適切な	設問や問題文で求められる題意が適切に	В	合格水準にあと一歩
盛り込み	盛り込まれていること		
論理性	論述に根拠があり、論理的な内容になっていること ・行動や考えの背景として、経験や知識、分析結果に裏付けられた根拠が論述されていること ・行動した結果やプロジェクトの顛末を書いただけの論文になっていないこと ・論述が、具体的・定量的で、かつ論理的	В	合格水準にあと一歩
	であること		
プロマネの 創意工夫	プロジェクトマネージャとしての創意工夫・判断基準が盛り込まれていること・プロジェクトマネージャらしい総合的な考え方(創意工夫)を論述していること・プロジェクトマネージャの役割や責任を理解した上で、適切な行動等について論述していること・専門用語などは本来の意味や目的を理解して用いていること	A	合格水準にある
文章表現	文章表現が適切で、かつ理解しやすい文章 であること ・論文としてふさわしい文章表現である こと ・文章の内容が理解しやすいこと ・助詞などの用法に誤りがないこと ・誤字脱字がないこと	A	合格水準にある

## 4. 講評

添削者が考える講評について示します。なお頂いた論文に赤字でコメントを入れておりますので (コメントは本添削結果の末尾に添付)、講評と合わせてご確認頂けますと幸いです。

設問アは、おおむね題意を満たした具体的な論述ができていたと思います。ただし、高難易度の技術を用いることが、プロジェクトのどのような特徴になっているのか、といった点をきちんと論述してもらえると、なお良かったかと思います。また重点管理するアクティビティの説明について、多少根拠が弱いと感じました。この点については論文にコメントをさせて頂いておりますので、そちらをご参照ください。

設問イでは、進捗遅れの兆候を早期に把握する方法の論述は大変具体的であり良かったと思います。進捗遅れの兆候への対策についても、対策の中身や流れについて具体的で良かったと思います。ただし論述全般に言えることなのですが、論述内容がやや「事実内容」を述べている分量が多く、プロマネの「考察や考え」をもうすこし掘り下げて論述して頂けると、説得力のある内容になるように感じました。対策の論述についても具体的でかつその効果についても触れられておりますが、プロマネが何を考え判断したのかを、もう少し掘り下げて論述して欲しいと感じる箇所があります。この点についてもコメントをさせて頂きました。

設問ウは、問題文や設問文にもある通り「設問イで述べた対策にもかかわらず進捗が遅れた場合」を論述しなければなりません。つまり、設問イで対策をしたけれども、その対策だけでは足りずに(もしくは想定した効果が発揮できずに)、進捗が遅れてしまった状況を述べます。そのため、設問イと設問ウの論述内容は関連していなければなりません。

本論文では、設問ウでは、設問イの論述内容とは関連のない他の要因によって進捗が遅延したように読み取れます(設問イの対策は有効であり、この要因による進捗遅延はなかった)。そうではなくて、設問イの対策では不足した原因を明らかにし、更なる追加対策を打った点を論述することが必要でした。この点で題意を満たしていないと考えます。

# 5. 今後の学習に関するコメント

全体的には論述内容が充実しており、具体的で考えられた論文であったと感じます。

設問イと設問ウは、同じ作業工程での論述としたほうが、題意を満たした論文が書きやすいのではないかと思います。参考例ですが、設問イの論述内容をもう少し膨らませて、高スキルの要員を配置する、という対策を進捗遅れの兆候への対策とし、設問ウでR&Dセンタの専門家の参画という追加対策を述べてもよろしかったのではないかと思います。そういう意味で、論文全体にいろんな要素を詰め込みの感があり、それが1つ1つの論述で掘り下げが足りていないと感じる原因になったのかもしれません。

以上、添削結果のご確認の程よろしくお願い申し上げます。 ご不明点などございましたらお気軽にメールにてご連絡を頂けますと幸いです。

以上

なお詳細な添削をご希望の場合は、通常の論文添削か、通しサポート添削をご検討ください。

- ・論文添削通しサポート
  - ⇒添削者が合格水準にあると判断するまで、何度でも添削を受けられるサービスです。また今だけの特典として、「受験対策小冊子(2012年度版:1,500円相当)」を無料でプレゼントいたします。更に通しサポートの価格との差額だけをお支払いいただくことで通しサポートにグレードアップすることができます。
    - グレードアップについては弊社サイトの以下URLをご参照ください。
    - ⇒ <a href="http://creative-1st.com/pm-cart/index.php?main\_page=product\_info&cPath=104&products\_id=245">http://creative-1st.com/pm-cart/index.php?main\_page=product\_info&cPath=104&products\_id=245</a>
- ・通常の論文添削(1回)
  - ⇒1回だけ通常の論文添削を行うことができます。通常の論文添削へはグレードアップ・プランはございませんので新規にご購入いただく形となります。
    - 通常の論文添削については弊社サイトの以下URLをご参照ください。
    - ⇒ http://creative-1st.com/pm-cart/index.php?main\_page=product\_info&cPath=104&products\_id=233

八名 一	•					: 平放	, 22 +		 ⊔1 Ω	D)	ス门ノ												1	/ 9 
1.	私	0	携	わ	つ	た	シ	ス	テ	4	開	発	プ	口	ジ	工	ク	1						
1.1	プ	口	ジ	工	ク	<u>۱</u>	0)	特	徴															
	私	は	SI	企	業	X	社	で	プ	口	ジ	エ	ク	F	(	以	下	PJ)	管	理	を	担	当	L
て	V	る	0	今	口	取	ŋ	上	げ	る	PJ	は	A	社	0)	ビ	ル	設	備	機	器	保	守	管
理	シ	ス	テ	4	開	発	(	以	下	A	社	PJ)	で	あ	る	0	A	社	要	請	は	現	行	シ
ス	テ	4	0	機	器	監	視	機	能	強	化	ح	使	用	性	向	上	0	た	め	シ	ス	テ	۵
構	成	を	_	新	し	`	新	エ	レ	ベ	<u> </u>	タ	0)	導	入	に	合	わ	せ	て	稼	働	開	始
l	た	V	と	٧١	う	4	0)	で	あ	つ	た	0	A	社	は	当	社	ک	は	初	め	て	0)	取
引	と	な	b)	**	今	後	<i>の</i>	受	注	を	含	め	重	要	顧	客	٤	位	置	づ	け	5	れ	た
	本	PJ	がる	あるの	か、	用いる どんな ハった	ことを	を要求	される	ラプロ	ジェク	トに	なって	<b>5</b>	0									
	1.	納				たいと				- / 1	- V 101 国	( ) // (		i i	対	l	て	短	期	で	厳	L	٧١	0
	2	機	器	監	視	機	能	に	関	l	て	高	難	度	技	術	で	あ	る	機	器	保	守	時
		期	予	知	機	能	(	以	下	P	機	能	)	を	新	規	開	発	搭	載	す	る	. 0	
	本	PJ	は	特	に	重	要	顧	客	向	`	短	納	期	٤	V	う	Ĺ	٤	で	重	点	案	件
12	登	録	さ	れ	た	0	2	0	状	況	下	で	私	は	PJ	マ	ネ	ジ	ヤ	を	拝	命	L	`
当	事	業	所	挙	げ	て	の	推	進	と	な	つ	た	0										

論文の著作権は論文の作者に帰属する。無断転載・複製を禁ず。

1.2		重	点	管	理	し	た	ア	ク	テ	イ	Ľ	テ	イ	٤	進	捗	管	理	0	方	法		
	私	ルナ クリラ	・イカ		RS は全	た 工程に	存在1	成してい	ます。	特定	<u></u> 全 の工程	て 星だ	の	開	発	機	能	と	ア	ク	テ	イ	ピ	テ
イ	な	けがク カルハ	リテ	ィカル	/パス	とはな	りませ	せん。	そのた	こめ「	クリラ	・イ	人	的	資	源	等	を	算	出	L	た	0	そ
L	て	重点管 特に重	点管	理しな	ければ	ばなら	ないこ	アクテ					IJ	V	グ	を	行	V	`	ク	IJ	チ	力	ル
パ	ス	由と共   <sup>で</sup>	に述っ	べて頂	きたい	ハと思   。	います	) 	小口	<b>/</b>	`	נולן	発	規	模	٤	工	数	が	最	大	で	あ	る
P	機	能	の	内	部	設	計	`	結	合	テ	ス	<u>۲</u>		総	合	テ	ス	<u>۲</u>	エ	程	に	お	け
る	ア	ク	テ	イ	ビ	テ	イ	が	ク	IJ	チ	カ	ル	パ	ス	ح	な	つ	て	お	ŋ	PJ	全	体
0)	進	捗	を	左	右	す	る	۲	٤	が	確	認	さ	れ	た	0	そ	の	た	め	私	は	`	۲
の	ア	ク	テ	イ	Ľ	テ	イ	を	重	点	管	理	す	る	۲	٤	に	L	た	0				
	私	は	定	量	的	な	進	捗	管	理	を	行	う	た	め	12	E	/M	を	採	用	す	る	ک
٢	に	L	た	0	具	体	的	に	は	`	毎	週	末	EV	AC	を	ア	ク	テ	イ	ビ	テ	イ	単
位	で	チ	<u> </u>	4	IJ	<u> </u>	ダ	に	報	告	さ	せ	`	PV	ک	比	較	管	理	す	る	J. J	ک	に
L	た	0	ま	た	`	進	捗	は	メ	ン	バ	<u> </u>	全	員	が	_	目	で	確	認	で	き	る	ょ
う	に	,	進	捗	バ	<u> </u>	チ	ヤ	<u> </u>	1	`	問	題	点		覧	の	他	`	各	種	設	計	書
Þ	操	作	画	面	`	プ	口	グ	ラ	ム	等	0	成	果		管理の ての論								
括	保	管	す	る	ے	ح	に	し	た	0						ません		\11 P\	~-	2,70	,,,,,	, jeg.		

論文の著作権は論文の作者に帰属する。無断転載・複製を禁ず。

2.	進	捗	管	理	で	の	遅	れ	0)	徴	候	発	見	と	日	程	を	守	る	対	策			
2.1	進	捗	遅	れ	兆	候	の	早	期	把	握	の	方		.1 節に									
	私	は	`	РJ	進	捗	管	理	計	画	策	定	12		方法にいった				<u> </u> べら	れてお	<b>3り、</b> 。	とても	. 艮	チ
	ム	IJ	<u> </u>	ダ	0	負	担	を	考	え	週	1	口	ک	し	た	0	そ	l	て	特	に	重	点
管	理	ア	ク	テ	イ	ビ	テ	イ	ح	l	た	P	機	能	に	つ	٧١	て	は	`	EV,	AC	に	先
行	L	た	進	捗	遅	れ	の	兆	候	を	発	見	す	る	指	標	ک	L	て	`	担	当	0	残
業	時	間	と	未	解	決	問	題	点	に	注	目	す	る	2	ح	に	L	た	0	何	故	な	Š
ば	`	残	業	時	間	の	増	加	ک	未	解	決	問	題	の	停	滞	は	何	ら	カュ	0	<u>۲</u>	ラ
ブ	ル	0	発	生	を	示	L	て	お	り	`	進	捗	遅	れ	の	兆	候	把	握	に	有	効	ک
考	え	た	カュ	5	で	あ	る	0	さ	ら	に	残	業	時	間	は	勤	怠	管	理	表	カュ	5	`
未	解	決	問	題	点	は	PJ	共	通	サ	<u> </u>	バ	上	の	問	題	点	IJ	ス	<u>۲</u>	カゝ	5	`	メ
ン	バ		0)	負	担	な	<	私	が	日	々	チ	工	ツ	ク	で	き	る	カュ	5	で	あ	る	0
	私	は	兆	候	に	対	す	る	実	際	0	ア	ク	シ	3	ン	発	動	レ	ベ	ル	と	L	て
P	機	能	担	当	者	の	残	業	時	間	3H	が	連	続	2	日	継	続	L	且	つ	同	_	未
解	決	問	題	が	3	日	間	未	解	決	で	あ	る	状	態	を	設	定	L	た	0	そ	し	て
フ	オ	口	_	ア	ク	シ	ヨ	ン	ک	l	て	`	関	連	メ	ン	バ	_	に	よ	る	臨	時	検

「高度な技術内容」とは、具体的にどのような技術課題なのか、簡単 会に説明が欲しいと思いました。また「高度な技術内容」だと、プロジ 計 的 迅 谏 検 計 る ェクトとしてどんな課題や問題があるのかが明確に述べられていませ ん。例えば、技術調査に時間がかかるとか、専門家を配置しなければ 知 ならないなどといった課題です。それが述べられていないと、原因に 対して適切な対応が行われているのかどうかを、添削者は文面から読 2.2 対  $\Diamond$  $\mathcal{O}$ み取ることが難しくなります。ただし、その後「高スキル保有者をア サインした」と述べられているので、推測することは可能でした。 技 あ 計 段 階 眀 私 設 計 品 質 を 確 は 画 カュ は た 上 る 業 所 中 \$ ゴ 8 日 B 術 閨 た 高 丰 保 者 IJ ズ  $\Delta$ シ 技 ス ル  $\exists$ ユ SE2 を T サ る 確 保 た あ 名 能 設 ŧ, Р 計 ベ は 短 納 あ 口  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$  $\mathcal{O}$ ス 門 社 社 R&D セ 障 予 あ 本 研 究 部 あ  $\mathcal{O}$ 故 知 ゴ ズ 発 部 研 究 成 を 利 用 る 私 は  $\Delta$ ラ 実 計 品 を た 技 フ を に 設 位. 保 す ス 確 7 確  $\mathcal{O}$ ア 成 物 を 引 継 け 7 な 設 始  $\aleph$ 前  $\mathcal{O}$ 記 | SE2 | 名 「〇〇の課題が×日以上進展がない状況を察知し」など、簡単で良い 调 間 上 底 を ので、2.1 節で述べた進捗遅れの兆候の早期把握をする管理方法 の、どういった方法で把握したのかを追記すると、より読み手が理解 収 集 さ せ た しやすくなります。 部 設 計 が 延 兆  $\mathcal{O}$ さ カュ カゝ 2 た 時 私 は

問: 平成 22 年度 問3

											I										I			
を	検	知	し	臨	時	検	討	会	議	を	開	催	す	る		کے	に	し	た	0	会	議	で	0
担	当	者	0)	説	明	カュ	ß	`	遅	延	兆	候	発	生	の	原	因	は	ア	ル	ゴ	IJ	ズ	ム
0	方	式	選	定	に	関	す	る	技	術	的	な	項	目	で	あ	つ	た	0	そ	l	て	`	私
は	`	方	式	選	定	は	今	後	の	性	能	に	大	き	<	拘	わ	つ	て	\ \	る	٦	ک	٢
高	度	な	技	術	的	な	判	断	が	必	要	で	あ	る	2	ح	を	認	識	L	`	担	当	SE
0	能	力	を	超	え	て	٧١	る	ŧ	の	ح	判	断	し	た	0								
	そ	۲	で	私	は	特	に	技	術	問	題	の	解	決	支	援	の	た	め	に	`	R	&D	セ
ン	タ	_	の	故	障	予	知	ア	ル	ゴ	IJ	ズ誤	・「業	題を入り	発展で	立尺	明	の	支	援	体	制	を	確
保	す	る	7.	ک	に	l	た	0	Re	¢D	セ	正			の関係	_	月	家	の	当	PJ	^	の	常
時	参	加	は	現	状	業	務	٤	関	係	で	困	難	で	あ	ŋ	`	又	所	在	地	は	当	事
業	所	と	は	離	れ	た	K	市	に	あ	る	0	そ	の	た	め	日	常	的	な	交	流	は	不
可	能	で	あ	る	0	そ	2	で	,	私	は	,	専	門	家	3	名	を	РJ	メ	<u> </u>	IJ	ン	グ
IJ	ス	<u>۱</u>	に	登	録	し	日	常	の	РJ	情	報	を	共	有	す	る	ک	ح	ŧ	に	`	РJ	サ
	バ	の	IJ	ポ	ジ	ト	IJ	<u> </u>	^	の	ア	ク	セ	ス	権	を	与	え	`	全	て	の	開	発
資	料	を	閲	覧	可	能	٤	す	る	2	٤	に	し	た	0	常	に	全	て	の	技	術	情	報
						1	1	1	T. Control of the Con	1	1	1	l .		I .	t contract of							1	

論文の著作権は論文の作者に帰属する。無断転載・複製を禁ず。

3/9

ラ	ブ	ル	時	0	支	援	が	ス	ム	<u> </u>	ズ	と	な	る	様	に	考	え	た	カュ	ら	で	あ	る
	私	は	`	R	¢D	セ	ン	タ	_	長	に	3	名	0)	支	援	了	解	を	取	り	付	け	`
 	ラ														等	で	ス	ポ	ツ	<u>۲</u>	的	に	参	加
l	て	対策としては問題ないのですが、もう少しプロマネの考えを深堀りしるで論述してもらえると、プロマネの存在感のある論文になるのではないかと思います。 「私は、当初想定していた以上に難易度の高い技術を用いることから、このままでは技術的な課題によって品質が低下する可能性がある、と考えた。私は内部設計工程での品質を確保するため・・・」などといった感じです。																						
	そ	ら、	「私は、当初想定していた以上に難易度の高い技術を用いることから、このままでは技術的な課題によって品質が低下する可能性がある、と考えた。私は内部設計工程での品質を確保するため・・・」などといった感じです。 若干、全体的にプロマネの考えの論述が薄い印象を受けます。もう少															定	問	題	は	彼	5	の
的	確	いっ	と考えた。私は内部設計工程での品質を確保するため・・・」などといった感じです。 若干、全体的にプロマネの考えの論述が薄い印象を受けます。もう少し意識して「事実」の論述だけでなく、「事実+考え」の論述になる															見	地	カゝ	5	無	事	解
決	す	し意	若干、全体的にプロマネの考えの論述が薄い印象を受けます。もう少し意識して「事実」の論述だけでなく、「事実+考え」の論述になるように「考え」の部分を深堀りして論述するとよいかと思います。																					
	私	は	`	さ	ß	に	Р	機	能	の	ア	ク	テ	1	ピ	テ	1	の	品	質	を	ょ	り	
層	高	め	る	た	め	`	R	&D	セ	ン	タ	<u> </u>	0	3	名	に	は	エ	程	毎	の	レ	ビ	ユ
<u> </u>	に	は	出	張	ベ	_	ス	で	参	加	l	て	貰	う	2	ح	に	し	た	0	そ	し	て	早
期	に	致	命	的	な	問	題	を	抽	出	し	`	よ	り	上	流	工	程	で	口口	質	を	作	り
>	め	る	体	制	ح	l	た	0																

論文の著作権は論文の作者に帰属する。無断転載・複製を禁ず。

3.	進	捗	遅	れ	の	発	生	لح	対	策	設問	ウは、	「設	問イで	述べ	た対策	にも関	曷わら	ず進捗	よが遅	れた」	ケー	ス	
3.1	進	捗	遅	れ	<i>O</i>	発	生							ばなり ます。									_	
							\	/			して	もらっ	たに	も関わ										
-	PJ	は	計	画	通	り	進	捗		`	T		りまし	_	·設計 <sup>-</sup>	T程で	- 設問	見ウ <i>は</i>	テスト	、丁程	になっ	てい	‡ <u> </u>	<u>ろ</u>
が	`	負	荷	テ	ス	1	JE	て	A	社	す。	もちろ	Sh.	工程が	別で	も題意	を満た	こして	いれば	ば問題	はあり	ません	ん 玥	計
算	値	L	テ	ス	L	<del>1</del> /2/2		≑L	哲	灶	-					は同じ	工程で	で論述	すると	: 論述	がしそ	すい	かし	発
	1		/	^	r	が、基本的には設問イとウは同じ工程で論述すると論述がしやすいのではないかと考えます。															光			
生	L	た	0	ک	の	状	況	は	兆	候	検	出	の	仕	組	み	で	捉	え	6	れ	<u> </u>	私	を
含	む	臨	時	検	討	会	議	で	原	因	を		明	l	た	0	L	カュ	l	な	が	ら	要	因
が	多	す	ぎ	て	原	因	が	特	定	で	き	<u>ず</u>		予	定	よ	り	1	週	間	の		れ	<u>ع</u>
な	つ	て	し	ま	つ	た	0																	
3.2	遅	れ	$\mathcal{O}$	原	因	<u>ا</u>	影	響	分	析														
0.2		40	V	/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /			- 泉/		),	7/1														
	私	は	`	R8	ξD	セ	ン	タ	<u> </u>	の	専	門	家	に	出	張	を	依	頼	し	`	実	機	を
直	接	調	査	す	る	٢	لح	に	よ	り	原	因	を	究	明	し	て	賞	う	ل	لح	に	L	た
4-4-	仏堂	41 <del>11.</del>	<del>                                      </del>	.23	<u></u> .	,	DI	,	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	. 8		28	).L		), %	ДT	) <del>4</del> 1	7	AL	1	Abit	W.	7	
技		難	度	が	高		PJ	メ	<i>&gt;</i>	<u> </u>		だ	け	で	は	解	決	不	能	ع	判	断	し	た
た	め	で	あ	る	0																			
	3	名	<i>O</i>	専	門	家	$\mathcal{O}$	調	查	に	ょ	ŋ		テ	ス	٦.	機	の	予	知	ア	ル	ゴ	IJ
					1 -	~ ·				,-				<del>  ′</del>		'								
ズ	ム	の	特	定	タ	ス	ク	が	CPU	負	荷	過	大	に	よ	り	処	理	時	間	が	長	<	な

氏名:

							I				I		I			I								1
Ŋ	`	他	タ	ス	ク	間	の	受	け	渡	し	デ	<u> </u>	タ	と	同	期	し	て	V	な	V	۲	<u>ك</u>
が	原	因	で	あ	る	٦	と	が	判	明	し	た	0	そ	し	て	`	対	策	ك	し	て	1000	step
0	ア	ル	ゴ	IJ	ズ	4	関	連	プ	口	グ	ラ	4	修	正	ح	`	必	要	エ	数	801	H(2	名
*5	日	)	が	見	積	ŧ	5	れ	た	0														
	総	合	テ	ス	<u>۲</u>	で	は	`	既	に	1	週	分	の	作	業	PV=	70H	分	0)	遅	延	が	発
生	し	て	\ \	る	0	ک	れ	に	追	加	作	業	ح	な	る	プ	口	グ	ラ	4	修	正	1	週
間	分	が	加	わ	り	`	本	ア	ク	テ	イ	ピ	テ	イ	は	2	週	間	遅	れ	る	見	込	み
と	な	つ	た	0																				
3.3	追	加	対	策	と	結	果																	
	総	合	テ	ス	<u>۲</u>	の	試	験	遅	れ	PV=	70H	分	の	作	業	は	`	残	ŋ	2	週	間	で
IJ	カ	バ	IJ		対		ナ、 最後の	上 )工程;	ァ だと残	業した	たほう	が得知	を と	ナロ いう部	∌に	<del>画</del> 根拠が	ュ゛ <sup></sup> 「理解 <sup>、</sup>	歩 でき	成	さ	れ	る	0	対
策	٤	し	て	4	と												ハまし		を	充	て	る	ل٠	٤
に	し	た		理	由	は	`	新	メ	ン	バ	<u> </u>	追	加	で	は	逆	に	効	率	を	低	下	さ
せ	る	ے ا	と	及	び	PJ	最	後	<i>O</i>	工	程	で	ŧ	あ	ŋ	多	少	0)	無	理	を	L	て	で
€	平	日	の	2H	程	度	の	残	業	と	休	出	で	対	応	l	た	方	が	得	策	と	考	え
た	カュ	ら	で	あ	る	0																		

設問ウ

論文の著作権は論文の作者に帰属する。無断転載・複製を禁ず。

氏名:

	+		ア	ग्रेट	ーデ	l I	ブ		修	正	1.+	走	1.5	宙	田田	台上	+	が	.Yı	亜	<i>†</i> 2	~	と
	),	`				9		Δ 		1.	14	同	· ·	守	11	月上	)J	///-	业	女	\rangle		
ら	R8	zD	セ	ン	タ	<u> </u>	0	今	口	の	出	張	支	援	者	2	名	に	引	き	続	き	修
作	業	£	依	頼	す	る	٢	と	に	し	た	0	そ	L	て	`	総	合	テ	ス	<u>۲</u>	と	並
に	作	業	を	実	施	す	る	٢	と	で	修	正	後	の	最	終	テ	ス	1	ک	レ	グ	レ
シ	3	ン	テ	ス	1	に	_	週	間	カュ	け	ら	れ	る	計	画	と	L	ア	ク	テ	イ	ビ
イ	完	了	日	を	確	実	に	L	た	0													
ア	ク	テ	イ	ビ	テ	イ	は	2	週	間	で	レ	ビ	ユ	_	を	含	め	予	定	通	り	完
し	た	0	そ	し	て	`	PJ	と	し	て	0	納	期	ŧ	達	成	す	る	٦	と	が	で	き
0	追	加	費	用	は	当	初	ょ	ŋ	150	万	円	超	過	し	た	0	L	カュ	し	`	コ	ン
ン	ジ	工	ン	シ	_	予	備	費	と	し	て	500	万	円	0)	予	算	0)	中	カュ	ら	割	り
て	る	٢	ک	で	全	体	と	L	て	は	予	算	を	達	成	で	き	た	0				
そ	0	結	果	`	Q	CD	と	£	目	標	を	達	成	で	き	た	0						
																			以	上			
	作にシイアし。シイ	ら R8 作 業 に シ ョ 元 ア ク た 。 追 ジ る	ら R&D 作 業 も に 作 業 シ ョ ン ィ 完 了 ア ク テ し た 。 。 追 加 ン て る こ	よ     R&D     セ       作業     も     依       に 作業     を       ションティア     ファイ       イクティーそ。     カルサン       より     エーン       スクラース     カルカース       カルカーカーン     カーカース       スクラース     カーカース       カーカース     カーカース       マーカース     カーカース       スクターカース     カーカース       スクタース     カーカース       スクタース     カーカース       スクタース     カーカース       スクタース	ら R&D     セ ン       作業     も 依 頼       に 作業     を 実       ションテス       イ 完 了 日 を       ア ク テ イ ビ       し た 。 そ し       適 加 費 用       ン ジ エ ン で       て る こ と で	ら R&D     セ ン タ       作業 も 依 頼 す       に 作業 を 実 施       ションテスト       イ 完 了 日 を	ら R&D     セ ン タ ー       作業も依頼する       に作業を実施す       ションテストに       イ 完 了 日 を確実       ア ク テ イ ビ テ イ       し た。 そ し て、       。 追加費用は当       ン ジ エ ン シ ー 予       てることで全体	ら R&D     セ ン タ ー の       作業も依頼するこ       に作業を実施する       ションテストにー       イ 完 了 日を確実に       ア ク テ イ ビ テ イ は       した。そして、PJ       追加費用は当初       ンジェンシー 予備       てることで全体と	ら R&D セ ン タ ー の 今 作 業 も 依 頼 す る こ と に 作 業 を 実 施 す る こ シ ョ ン テ ス ト に ー 週 ィ 完 了 日 を 確 実 に し ア ク テ ィ ビ テ ィ は 2 し た 。 そ し て 、 PJ と 。 追 加 費 用 は 当 初 よ ン ジ エ ン シ ー 予 備 費 て る こ と で 全 体 と し	ら R&D     セ ン タ ー の 今 回       作業 も 依 頼 す る こ と に       に 作業 を 実 施 す る こ と       ションテストに ー 週 間       イ 完 了 日 を 確 実 に し た       ア ク テ イ ビ テ イ は 2 週       し た 。 そ し て 、 PJ と し       。 追 加 費 用 は 当 初 よ り       ン ジ エ ン シ ー 予 備 費 と       て る こ と で 全 体 と し て	ら R&D センターの今回の作業も依頼することにしに作業を実施することでションテストに一週間かった。 アクティビティは2週間ひた。 アクティビティは2週間した。 そして、PJとして。 過加費用は当初より150ンジェンシー予備費としては	ら R&D センターの今回の出作業も依頼することにしたに作業を実施することで修ションテストに一週間かけイ完了日を確実にした。 アクティビティは2週間でした。そして、PJとしてのの。追加費用は当初より150万 ンジェンシー予備費として てることで全体としては予	ら R&D セ ン タ ー の 今 回 の 出 張作 業 も 依 頼 す る こ と に し た 。 に 作 業 を 実 施 す る こ と で 修 正 ショ ン テ ス ト に ー 週 間 か け ら ィ 完 了 日 を 確 実 に し た 。 ア ク テ ィ ビ テ ィ は 2 週 間 で レ し た 。 そ し て 、 PJ と し て の 納 。 追 加 費 用 は 当 初 よ り 150 万 円 ン ジ ェ ン シ ー 予 備 費 と し て 500 て る こ と で 全 体 と し て は 予 算	ら R&D       セ ン タ ー の 今 回 の 出 張 支         作業も依頼することにした。そに作業を実施することで修正後         に作業を実施することで修正後         ションテストに一週間かけられ         イ完了日を確実にした。         アクティビティは2週間でレビ         した。そして、PJとしての納期         。追加費用は当初より150万円超         ンジェンシー予備費として500万         てることで全体としては予算を	ら R&D       セ ン タ ー の 今 回 の 出 張 支 援         作業 も 依 頼 す る こ と に し た 。 そ しに 作業を実施することで修正後の         ションテストにー週間かけられる         プ 日を確実にした。         アクティビティは2週間でレビュした。         した。そして、PJとしての納期も         適加費用は当初より150万円超過         ンジェンシー予備費として500万円         で達	ら R&D       センターの今回の出張支援者         作業も依頼することにした。そしてに作業を実施することで修正後の最         ションテストに一週間かけられる計         プライビティは2週間でレビュー         した。そして、PJとしての納期も達         適別があり150万円超過し         ンジェンシー予備費としてお予算を達成	ら R&D セ ン タ ー の 今 回 の 出 張 支 援 者 2 作業 も 依 頼 す る こ と に し た 。 そ し て 、 に 作業 を 実 施 す る こ と で 修 正 後 の 最 終 ションテストに ー 週 間 か け ら れ る 計 画 ィ 完 了 日 を 確 実 に し た 。 ア ク ティ ビ ティ は 2 週 間 で レ ビ ュ ー を し た 。 そ し て 、 PJ と し て の 納 期 も 達 成 。 追 加 費 用 は 当 初 よ り 150 万 円 超 過 し た ン ジ ェ ン シ ー 予 備 費 と し て 500 万 円 の 予 て る こ と で 全 体 と し て は 予 算 を 達 成 で	ら R&D       センターの今回の出張支援者2名         作業も依頼することにした。そして、総に作業を実施することで修正後の最終テションテストに一週間かけられる計画とイ完了日を確実にした。         プライビティは2週間でレビューを含した。そして、PJとしての納期も達成す         した。そして、PJとしての納期も達成す         がまり150万円超過した。         ンジェンシー予備費として500万円の予算         てることで全体としては予算を達成でき	ら R&D       センターの今回の出張支援者2名に作業も依頼することにした。そして、総合に作業を実施することで修正後の最終テスションテストに一週間かけられる計画として、「日を確実にした。」         ションテストに一週間かけられる計画として、「日を確実にした。」         アクティビティは2週間でレビューを含めした。そして、「PJとしての納期も達成する。」         した。そして、「PJとしての納期も達成する。」         より150万円超過した。         ンジェンシー予備費として500万円の予算の         てることで全体としては予算を達成できた	ら R&D センターの今回の出張支援者2名に引作業も依頼することにした。そして、総合デに作業を実施することで修正後の最終テストンコンテストに一週間かけられる計画としアイ完了日を確実にした。         プロの出張支援者2名に引作業を実施することで修正後の最終テストに作業を実施することで修正後の最終テストンコンテストに一週間かけられる計画としアイ完了日を確実にした。         プロの出張支援者2名に引作業を強力を正した。         プロの最終テスト         プロのおまりにある計画としア         プロの最終テスト         プロの最終テスト         プロを確実にした。         プロを確実にした。         プロを含め子         プロを確実にした。         プロを含めることでを確実にしての納期も達成することが少ジェンシー予備費として500万円の予算の中         プロを成することでを体としては予算を達成できた。         その結果、QCDとも目標を達成できた。	6 R&D センターの今回の出張支援者2名に引き作業も依頼することにした。そして、総合テスに作業を実施することで修正後の最終テストとションテストに一週間かけられる計画としアクイ完了日を確実にした。 アクティビティは2週間でレビューを含め予定した。そして、PJとしての納期も達成することの増加費用は当初より150万円超過した。しかしンジェンシー予備費として500万円の予算の中かてることで全体としては予算を達成できた。	ら R&D センターの今回の出張支援者2名に引き続 作業も依頼することにした。そして、総合テスト に作業を実施することで修正後の最終テストとレ ションテストに一週間かけられる計画としアクテ イ完了日を確実にした。 アクティビティは2週間でレビューを含め予定通 した。そして、PJとしての納期も達成することが 。追加費用は当初より150万円超過した。しかし、 ンジェンシー予備費として500万円の予算の中から てることで全体としては予算を達成できた。	6 R&D センターの今回の出張支援者2名に引き続き作業も依頼することで修正後の最終テストとレグションテストに一週間かけられる計画としアクティイ完了目を確実にした。 アクティビティは2週間でレビューを含め予定通りした。そして、PJとしての納期も達成することがで。追加費用は当初より150万円超過した。しかし、コンジェンシー予備費として500万円の予算の中から割てることで全体としては予算を達成できた。

論文の著作権は論文の作者に帰属する。無断転載・複製を禁ず。